

第X期 事業報告書

2019年6月1日～2020年5月31日

当法人の活動目的は、人と動物が良きパートナーとして、共に幸せに暮らせる社会を作っていくことである。そのために、以下3つの活動を行い、また当法人の組織基盤の強化も図りながら、日本の動物福祉を世界トップレベルまで引き上げていくことを目指す。

- ① 動物福祉活動に従事する非営利法人に対して寄付支援を中心とする活動支援
- ② 動物福祉に対する考え方や情報を社会に発信していくセミナー等の企画運営
- ③ セミナー、WEB掲載等に活用するための情報リサーチ

1. 寄付支援事業

【目的と意義】

2011年9月にカットオーバーされた「アニマル・ドネーション」を通じて、支援先団体と寄付者を結び付ける事業である。支援先団体としては、遺棄動物の保護団体や補助犬育成団体や動物愛護の精神を啓発する団体等を対象としている。これらの対象法人の活動資金源の過半は「寄付」である。寄付による支援活動を活発化させることにより、動物福祉の底上げを図ることを目的としている。また、誰しものが気軽に寄付による支援が行えるオンラインでの寄付システムの提供や、企業等と協力した寄付の仕組みを提供することで、日本に寄付文化が定着していくことに貢献することも目的としている。

10期終了後の寄付の総額は、約1億5000万円となりサイトへの信頼性は増した。

1) 個人からの寄付支援事業

クレジットカードによるオンライン寄付システムを提供し、個人からの寄付を集め、支援先団体へ届ける事業。また、寄付金を募りやすい環境を作るために、支援先団体向けの活動支援や情報共有、勉強会運営、印刷物発行などを行う。寄付者に対しては、支援先団体の活動状況や、寄付金の使途、課題に対する情報などを、オンラインサイト内の記事やSNSなどを利用して提供する。

個人からの今期の寄付金額は1,414万円、累計では3,776万円となり、支援先団体数は2020年5月時点で20団体（通算24団体）となっている。

また、9期に行った決済システム全面変更を10期は更新し、寄付者がより使いやすいシステム構築を行った。またkintoneを導入し寄付管理システムを構築。寄付金をタイムリーに管理し支援先に正確に届ける仕組みを強化した。

2018年より活動を行っている遺贈寄付（アニドネレガシーギフト）に対しての問い合わせが増え、10期は2件の相続寄付をいただく。財産や相続金を動物のために利用し社会貢献を、という目的特化の遺贈寄付活動は、オンライン寄付サイトとは別の動きとして注視している。

2020年3月以降は新型コロナによって支援先団体の活動が困難になる緊急事態が発生。中間支援組織として、正しい情報収集・社会への提言・寄付活動（Yahoo! ネット募金等）をスピード感をもって実施。その結果、どの支援先団体も最悪の事態には至らず活動を続けられることができた。しかしながら、新型コロナによって、もともと抱える動物福祉問題（安易な飼育・多頭飼育崩壊・外猫の問題など）が顕著になってきている。その影響は、私共が支援する団体に対しても変容が求められている。

2020年4月に東京都港区版ふるさと納税制度の活用先のうち「公益的活動団体の支援」の対象団体に選定。

2) 企業団体からの寄付支援事業

企業の社会貢献として当法人と協働した寄付企画を立案し実行する事業。企業の扱う商品の一部が寄付となる商品開発や、企業と協働した寄付キャンペーンの企画立案を行う。日本においても、近年は社会への貢献のあり方が多様化し、寄付を行いたいという企業は多くある。その際に、企業が寄付活動に取り組みやすい環境を作るために、企画立案やコンサルティングを行う。

企業団体からの今期の寄付金額は、1,670万円、累計では、11,113万円となった。
今期の企業寄付は、前期よりも約160万円増加した。

2019年6月Amazonの「動物保護施設 支援プログラム」の立ち上げに際し、施設の選定・審査で当法人が協力。日本の動物福祉分野を変革しようとする大手企業の社会活動の一助を担う。他には映画「駅までの道をおしえて」の制作段階からの助言・協働、2月22日（猫の日）限定のテレビ東京とのコラボ寄付など、企業とコラボしながら社会貢献を実施、成果を得る。

2. セミナー等の企画運営事業

【目的と意義】

犬や猫の動物飼養に対する正しい認知・知識を社会全体で持つことが、人も動物も暮らしやすい社会づくり、動物福祉の向上にとって重要である。特に、社会全体への発信力が大きいメディア関係者や動物飼養者との接点が多い動物事業関係者の認知・知識が底上げされていくことが重要と考える。

そこで、子供、学生、一般の方々などを対象とするセミナー等の開催を通じて、社会全体の認知・知識の向上を積極的に行っていく。内容は、動物飼養や動物福祉に関する歴史や正しい知識を学べ、自身がどう行動すべきか、を考えられるセミナーとなっている。

◆日時:7月20日 11:00-12:30

場所:日本福祉大学 美浜キャンパス 320大講義室

対象者:子ども発達学部 心理臨床学科

社会福祉論(1年生科目)

1年生は80-90名

2、3、4年生は合わせて10名程度

当日は合計約100名の講義

テーマ『知ってみよう 動物の福祉について』

講師:糸ひとみ

◆日時:2019年10月3日 16:00-18:00

場所:目黒会議室

対象者:クラブアニドネ

人数:4名

テーマ「日本と世界の動物福祉について」

講師:西平衣里

◆日時:2019年11月30日 16:00-18:00

場所:渋谷会議室

対象者:クラブアニドネ

人数:7名

テーマ「日本と世界の動物福祉について」

講師:西平衣里

3. リサーチ事業

【目的と意義】

動物福祉に関する多様な考え方や情報を共有していくことが、社会全体の関心を高め、業界全体がボトムアップしていくために重要である。そこで、国内・海外の事例のリサーチ、専門家インタビュー等を通じて、動物福祉に関するナレッジを蓄積し、情報開示を行っている。業界が抱えている課題やベストプラクティスを学び合っていく。

10 期は、海外に住み、各国の動物事情に直接触れた人物を探してインタビューを実施（インド・ドバイ）。記事を作成しながら各国の法律や問題点等リサーチ。国によって全く異なる動物観を知ることによって日本の進むべき方向性を調査した。

また、昨今「殺処分ゼロ」を掲げ、さまざまな努力や工夫を重ねる行政施設（動物愛護センターなど）が増えてきている。ただ、その施設の意義や意味は広く一般の方まで知られている状況には至っていない。よって当法人で取材をし魅力を伝えることで広く情報を伝えた（神奈川県・札幌・旭川など）。

4. 管理事業

【目的と意義】

当法人の目的や活動内容に理解・賛同をして、共に活動にしていだける方の拡大は、当法人の活動展開の上できわめて重要であり、活動の源となる。よって、当法人への会員になることで会費を提供いただく会員制度やボランティアという労力で活動を支える会員制度を設立し、活動規模を拡げる目的である。

1) 賛助会員制度

一口3千円からの個人賛助会員と一口3万円の法人賛助会員を設けている。入会した賛助会員に向けては、会報誌の配布を通じた活動報告、毎月のメールマガジンの配布を行い、理解と関心を深めていただく施策を実施している。

今期は、個人賛助会員30口・法人賛助会員12口、合計45万円を募った。

2) スタッフの拡充

有償スタッフやボランティアスタッフを拡充し、組織運営の基盤強化を進めていく。活動内容は、会報誌の制作、SNSや当法人サイトを使つての情報発信、リサーチ活動、寄付金管理業務の強化を実施した。

今期は、ボランティアスタッフをさらに拡充し約55名体制としている。

3) 外部アドバイザリーボード

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学等の有識者数名を外部アドバイザーに迎えて、「審議委員会」を設けている。年1回審議会を開催して、支援先団体の選定に関する審議や、当法人の運営についてアドバイスをもらった。

今期の審議会は、外部有識者4名、当法人の代表理事1名の合計5名で構成している。2019年6月に審議委員会を実施。

5. 税額控除に係る証明申請

寄付者の皆様から頂いた寄付が税額控除の対象となるように、税額控除に係る証明の申請を行い、平成30年5月29日から令和5年5月28日までの期間の証明書を受領し活動継続した。

以上